

外科専門研修プログラム

2025年度

東京女子医科大学病院

目 次

- 【1】 プログラムの名称
- 【2】 プログラムの特徴
- 【3】 指導者と連携施設及び連携施設群の規模
- 【4】 研修コース
- 【5】 募集及び選考方法
- 【6】 後期臨床研修医の身分及び待遇
- 【7】 後期臨床件単湯修了後の進路
- 【8】 専攻医期間（1～3年目）の研修の詳細
 - (1) 研修プログラムの内容（経験目標・到達目標）
 - (2) 臨床現場を離れた学習について
 - (3) 自己学習について
 - (4) 具体的な研修スケジュール
 - ・週間スケジュール
 - ・年間スケジュール
 - (5) 研修の詳細
 - (6) 研修修了認定
 - (7) 研修の休止と研修期間の延長
 - (8) プログラム修了後の進路
 - (9) 研修実績の記録
 - (10) プログラムの運用マニュアル
- 【9】 本プログラムに関する問い合わせ先
- 【10】 連携施設

【1】プログラムの名称

本プログラムの正式名称を「東京女子医科大学外科専門研修プログラム」とする。

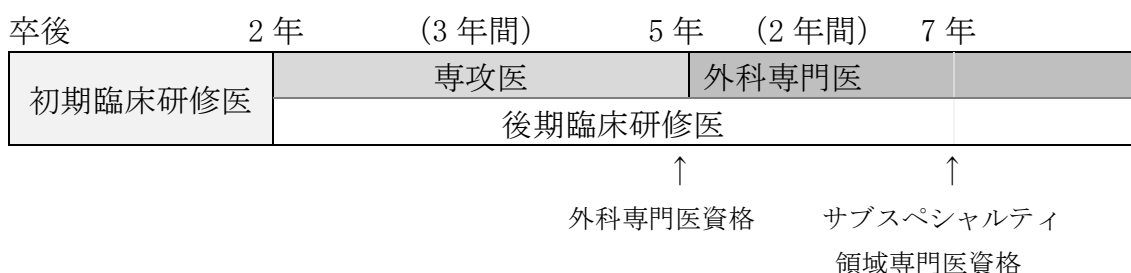
【2】プログラムの特徴

(1) プログラムの概要

東京女子医科大学外科専門研修プログラムは、初めの3年間で専攻医として基本領域専門医である外科専門医の資格を取得し、その後の2年間でサブスペシャリティ領域専門医（消化器外科専門医、心臓血管外科専門医、呼吸器外科専門医、小児外科専門医、乳腺外科専門医、内分泌外科専門医）の資格を取得することを目指す計5年間のプログラムです。

(2) 専攻医と後期臨床研修医

東京女子医科大学では、外科専門医資格の取得を目指す専攻医と、外科専門医資格取得後にサブスペシャリティ領域専門医資格を目指す外科専門医を合わせて後期臨床研修医と称しています。



(3) 本学の専門研修プログラムの背景 — 医療練士研修制度—

東京女子医科大学では、全国各地から高度な技能を有する専門医が集結し、極めて専門性の高い医療を実践し、提供しています。そして、そのような専門性の高い医療を学ぶために、多くの若手医師が全国から集まって研修しており、各領域において修練を終えた専門医は、国内外を問わず多くの機関・地域で活躍しています。

本学におけるこのような優れた臨床医を育成するための臨床研修プログラムは、医療練士研修制度と称されて時代を先取りする形で1966年にスタートしました。当時から、たとえ専門性の高い医療を行っていても近視眼的な判断に陥ることなく常に総合的な医療知識と技術を持って診療にあたることが重要視されてきました。そのため、医療練士研修制度においても、専門性の高い医療を提供する施設において、専門医療の知識やスキルと一般的診療能力とを兼ね備えた

医師を育成することが目標とされていました。その後、医療練士研修制度は、現行の専門医制度に合わせて後期臨床研修制度と呼称が変わりました。

(4) プログラムの特徴

本プログラムは、外科専門医資格とサブスペシャリティ領域専門医資格を最短期間で取得するための専門性の高い研修が受けられる一方で、かつての医療練士研修制度の持ち味を活かして一般的診療能力を兼ね備えた医師を育成することにも配慮されたプログラムです。

また、本プログラムにはその特徴をさらに活かしたコースとして、総合一般外科コースが設定されています。専門領域の各科と救命救急センターをほぼ均等にローテートできる本コースは、将来的に広い領域をカバーして地域医療を支える general surgeon を志し、各領域の専門性をそれなりに深めておきたいという方を対象に設定されたコースです。

【3】指導者と連携施設および連携施設群の規模

本プログラムは、東京女子医科大学病院を基幹施設とし、39 の連携施設とともに専門研修施設群を構成している。本専門研修施設群では、計 135 名の専門研修指導医が専攻医を指導する。

(1) 専門研修プログラム管理委員会

・統括責任者

本田 五郎（東京女子医科大学 消化器・一般外科）

・副統括責任者

新浪 博（東京女子医科大学 心臓血管外科）

神崎 正人（東京女子医科大学 呼吸器外科）

・管理委員

明石 定子、世川 修、堀内 喜代美、武田 宗和、市原 有起、青島 宏枝、野口 英一郎、末吉 亮、江黒（尾身） 葉子

・各領域責任者

消化器外科	本田 五郎	（東京女子医科大学 消化器・一般外科）
心臓血管外科	新浪 博	（東京女子医科大学 心臓血管外科）
呼吸器外科	神崎 正人	（東京女子医科大学 呼吸器外科）
小児外科	世川 修	（東京女子医科大学 小児外科）

乳腺外科	明石 定子	(東京女子医科大学 乳腺外科)
内分泌外科	明石 定子	(東京女子医科大学 内分泌外科)
救命救急センター	武田 宗和(代行)	(東京女子医科大学 救命救急センター)

・ 専門研修指導医

細田 桂、山口 茂樹、有泉 俊一、小川 真平 番場 嘉子、大目 裕介、腰野 蔵人、金子 由香、二木 了、前田 新介、前田 文、松永 雄太郎、川本 裕介、橋田 和樹、伊藤 俊一、谷 公孝、新川 武史、齋藤 聡、濱崎 安純、菊地 千鶴男、齋藤 博之、道本 智、東 隆、市原 有起、森田 耕三、宮本 真嘉、服部 将司、神崎 正人、松本 卓子、井坂 珠子、青島 宏枝、光星 翔太、荻原 哲、末吉 亮、山田 進、野口、英一郎、青山 圭、塚田 弘子 清水 由実、野上 真子、江黒 葉子、吉田有策

・ 専門研修プログラム管理委員会の役割と権限

- ① 当管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者、専門研修副プログラム統括責任者および、各診療科専門研修指導医、専門研修プログラム連携施設担当者等で構成される。
- ② 専門研修プログラムの作成、管理、改善などを行う。
- ③ 専攻医の研修全般の管理を行う。
- ④ 専門研修プログラム修了時に専攻医の修了判定の審査を行い、専門研修プログラム統括責任者が修了判定を行う。
- ⑤ 専攻医および専門研修指導医から提出される意見を参照し、専門研修プログラムや専門研修体制の継続的改良を行う。
- ⑥ 6か月～1年毎に開催する。
- ⑦ 研修プログラム統括責任者は専攻医から提出されたプログラム評価報告内容を匿名化し、本委員会で審議を行いプログラムの改善を行う。
- ⑧ 専攻医からの指導医評価報告をもとに指導医の教育能力を向上させる支援を行う。

(2) 専門研修連携施設

本プログラムは連携施設とともに専門研修施設群を構成している。専攻医はこれらの施設をローテートし、連携病院において大学での研修で不足しがちな common diseases を経験することにより、偏りのない充実した研修を行う。また、連携施設の中には地域医療の拠点となっている施設もあり、地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方に

ついて理解し実践することができる。また、消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療が経験できる。

連携施設名	連携施設責任者 及び担当者
	2022年
(1) 東京女子医科大学足立医療センター	塩澤 俊一
(2) 東京女子医科大学附属八千代医療センター	新井田 達雄、片桐 聡
(3) 愛媛県立中央病院	石戸谷 浩
(4) 医療法人財団荻窪病院	澤 重治
(5) 社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院	押富 隆
(6) 社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院 聖隷浜松病院	鈴木 一史
(7) 地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	中島 雅人
(8) 医療法人社団武蔵野会 TMG あさか医療センター	藤田 竜一
(9) 医療法人社団常仁会牛久愛和総合病院	瀬下 明良、野口 岳春
(10) 大分市医師会立アルメイダ病院	白鳥 敏夫、橋本 拓造
(11) 一般社団法人至誠会第二病院	吉田 一成
(12) 社会医療法人三栄会中央林間病院	木山 智、河野 正寛
(13) 医療法人社団けいせい会東京北部病院	谷 英己
(14) 八王子消化器病院	小池 伸定
(15) 谷津保健病院	宮崎 正二郎
(16) 医療法人社団三喜会横浜新緑総合病院	齊藤 修治
(17) 公益財団法人東京都保健医療公社荏原病院	吉利 賢治
(18) 医療法人誠壽会上福岡総合病院	井上 達夫
(19) 公益財団法人東京都保健医療公社 多摩南部地域病院	桂川 秀雄
(20) 公益財団法人東京都保健医療公社豊島病院	福田 晃、安藤 昌之
(21) 社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院	比嘉 宇郎
(22) 防府消化器病センター防府胃腸病院	三浦 修
(23) 東京医科大学茨城医療センター	鈴木 修司
(24) 埼玉県済生会加須病院	小山 邦広
(25) 社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院	児玉 ひとみ
(26) 熊本赤十字病院	吉元 和彦
(27) 独立行政法人地域医療機能推進機構 東京城東病院	濱野 美枝
(28) 医療法人社団栄悠会 綾瀬循環器病院	丁 毅文
(29) 公益財団法人東京都保健医療公社多摩北部医療センター	大木 岳志
(30) 一般財団法人 宮城県成人病予防協会 仙台循環器病センター	椎川 彰

(31) 医療法人財団松圓会 東葛クリニック病院	1327	内野 敬
(32) 医療法人社団公仁会 大和成和病院	649	田畑 美弥子
(33) 特定医療法人財団竹政会 福山循環器病院	185	森元 博信
(34) 地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター	218	岩田 祐輔
(35) さいたま市立病院	87	朝見 淳規、島村 吉衛
(36) 長野県立こども病院	105	高見澤 滋
(37) 宇治徳州会病院	168	小林 豊
(38) 社会医療法人 中山会 宇都宮記念病院	206	山本 雅一、谷澤 武久
(39) 独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター	180	盆子原 幸宏、久米 悠太
(40) 長野医療生活協同組合 長野中央病院	275	八巻 文貴
(41) 倉敷中央病院	50	河本 和幸

(3) 2022年NCD登録数

東京女子医科大学病院（専門研修基幹施設）	2,359 例
上記41の連携施設	9,531 例
本専門研修施設群の合計	11,890 例

(4) 本年度受け入れ可能な専攻医数 20 名

【4】研修コース

(1) 選択可能なコース

東京女子医科大学病院外科専門研修プログラムは、サブスペシャリティ領域（外科の中でさらに専門分化した領域）の各科と救命救急センターをほぼ均等にローテートする総合一般外科コースと、将来を見据えて希望するサブスペシャリティ領域の科をある程度重点的にローテートすることができるサブスペシャリティ連動型コースの何れかより選択することができる。

研修プログラムコース名	研修全般を管理する科
総合一般外科コース	消化器・一般外科
サブスペシャリティ連動型コース	
消化器外科 連動型コース	消化器・一般外科
心臓血管外科 連動型コース	心臓血管外科
呼吸器外科 連動型コース	呼吸器外科
小児外科 連動型コース	小児外科
乳腺外科 連動型コース	乳腺外科
内分泌外科 連動型コース	内分泌外科

※ **コースの変更について**：総合一般外科コース選択者は、研修途中でサブスペシヤルティ連動型コースに移行することが可能である。また、サブスペシヤルティ連動型コース選択者は、結婚・出産・傷病、親族の介護、その他の正当な理由により、選択したコースでの専門研修継続が困難となった場合等、本人より申し出があり、かつ専門研修プログラム管理委員会の承認があれば、総合一般外科コースを含む他のコースに移行することが可能である。ただし、人員配置の都合上、希望申告から移行までに一定期間を要する場合がある。

(2) 研修期間

専攻医としての研修期間は原則として3年間とする。後期臨床研修医としての研修期間は専攻医としての研修期間を含めて5年間とするが、状況に応じて最長5年（合計10年間）まで延長できる。

(3) 研修計画

- ・研修計画（各科ローテーションの順番や期間等）は、研修全般を管理する科の領域責任者と本人とで相談して決定する。
- ・可能な限り柔軟に対応できるよう専門研修プログラム管理委員会がサポートする。
- ・原則として、研修計画は本人の希望を優先する。
- ・1年目は基本的に東京女子医科大学病院（基幹施設）で研修する。
- ・特に1年目は、初期臨床研修修了時の外科症例経験をNCD登録によって到達度を確認し、研修計画を調整します。例えば、麻酔科、救命救急の研修が不足している場合、これらを行う場合がある。
- ・2年目～3年目の間に少なくとも6か月は連携施設で研修する。本人の希望がある場合や、研修全般を管理する科の事情によって、1年目の途中から連携施設で研修を行う場合がある。
- ・研修する連携施設は、専門研修プログラム管理委員会において、本人の希望とそれまでの経験症例を参考にして決定する。
- ・特に3年目は、専門研修プログラム管理委員会の判断により、外科専門医を取得するにあたり不足する症例を経験する為に必要な変更を加える場合がある。
- ・以下に、年次ごとの大まかな研修計画を示す。

研修1年目：本院各科（救命救急センター含む）に6～12か月間勤務し、外科専門医として必要とされる基礎的スキルの研修を行う。サブスペシヤルティ連動型コースを選択した場合、この期間中も選択したサブスペシヤルティ領域での研修期間を長く設定することができる。

研修2年目：原則として連携施設で研修する。

研修3年目：本院各科（救命救急センター含む）または連携施設で研修する。

3年目は年度の初頭より逐次、外科専門医資格取得のための目標到達度を評価する。不足する研修内容があればこれらを補うためにプログラムを調整する。早期に到達した場合、残りの期間に希望するサブスペシャリティ領域の研修を受けられる（連動型コース選択者が選択したサブスペシャリティ領域以外のサブスペシャリティ領域で研修を受けることも可能；例えば、消化器外科連動型コース選択者が乳腺外科で研修）。

研修4年目以降：総合一般外科コース選択者は、希望する科を半年から1年単位でローテートして研修を行う。サブスペシャリティ連動型コース選択者は、選択した領域の科で研修を行う。

(4) 研修途中に大学院での修学を希望する場合

本プログラムに則って研修中の後期臨床研修医は、研修3年目以降であれば当大学大学院へ入学することができる。大学院過程は原則として4年間であり、大学院入学後も後期研修医としての身分を継続できる。必要に応じて臨床研修期間を延長することも可能である。

(5) コース選択例

総合一般外科コースの場合

1年目	本院消化器・一般外科を中心に複数の科・センターで研修
2年目	連携施設で研修
3年目	本院消化器・一般外科を中心に複数の科・センターで研修 外科専門医資格取得
4年目以降	本院消化器・一般外科を中心に複数の科・センターで研修

サブスペシャリティ連動型コース（乳腺外科）の場合

1年目	本院乳腺外科を中心に複数の科・センターで研修
2年目	連携施設で研修 外科専門医資格取得のための目標を達成次第、本院乳腺外科でサブスペシャリティ研修を開始
3年目	本院乳腺外科を中心にサブスペシャリティ研修 外科専門医資格取得
4年目以降	本院乳腺外科を中心にサブスペシャリティ研修

【 5 】 募集及び選考方法

- ①応募対象：2025年3月末までに初期研修を修了する見込み、もしくは既に修了し、外科専攻医としての研修を希望する医師
※現在、基本領域で研修中もしくは外科専門医資格取得済で、本学の後期臨床研修医として入局を希望する方は、入局希望の診療科までご相談ください。
- ②応募時期：2024年4月以降常時
- ③応募人数：20名
- ④応募書類：願書、履歴書、写真（無帽上半身・カラー光沢3×4cm）、最終学歴卒業証明書、医師免許証（写し）、健康確認票（指定書式）、初期研修修了（見込み）証明書（書式不問）
- ⑤選考方法：試験（小論文）、面接 ※状況により変更あり
- ⑥選考時期：2024年10月頃（〆切日は9月以降に病院HPで確認して下さい）
※募集定員に満たない場合は追加募集を行います。
- ⑦選考結果：専攻医登録システムによりメールにて通知予定

募集要項



各診療科情報



説明会情報



【 6 】 後期臨床研修医の身分及び待遇

- ①身分：東京女子医科大学病院の後期研修医（常勤）として採用する
- ②給与：本学規定により支給
- ③保険関係：本学健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険に加入

【 7 】 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修は原則として5年経過した時点で、総括的評価にて修了要件を満たしていれば研修修了とする。サブスペシャリティ領域専門医資格の取得の有無に関わらず、本学の所定の手続きが経られれば修了とすることは可能である。なお、修了が認められない場合であっても、10年を経過した時点で後期臨床研修は終了する。修了または終了後は、希望があれば選択したサブスペシャル

ティ領域の科の常勤または非常勤職員としての採用検討対象となる。東京女子医科大学病院およびその関連施設以外の施設への就職・就学は一切制限されない。

【8】専攻医期間（1～3年目）の研修の詳細

（1）研修プログラムの内容（経験目標・到達目標）

日本外科学会が示す到達目標と経験目標の具体的項目に沿って、逐次到達度を確認しながら研修を進める。

1年目の目標

知識：外科診療に必要な基礎的知識・病態を習得す。

技能：外科診療に必要な検査・処置・手術（助手）・麻酔手技・術前術後のマネージメントを習得する。外傷領域、消化管および腹部内臓領域、乳腺領域、小児外科領域、およびそれぞれ領域の内視鏡外科の研修

態度：医の倫理や医療安全に関する基盤の知識を持ち、指導医とともに患者中心の医療を行う

経験症例：150例

術者症例：30例

2年目の目標

知識：専門研修2年間で専門知識、専門技能、経験症例の知識を習得する。

技能：専門研修1年目の研修事項を確実にこなすことを踏まえ、不足した領域の症例経験と低難度手術から術者としての基本的スキル修得を目指す。外傷領域、呼吸器領域、心臓・大血管、末梢血管領域、頭頸部・体表・内分泌外科領域、およびそれぞれ領域の内視鏡外科の研修

学術：経験した症例の学会発表を行う基本的能力を身に付ける。

態度：医の倫理や医療安全を習得し、プロフェッショナリズムに基づく医療を実践できる。

経験症例：200例

術者症例：60例

3年目の目標

知識：サブスペシャリティまたはそれに準じた外科関連領域の基盤となる外科領域全般の専門知識、専門技能、経験症例の知識を習得する。

技能：専門研修2年間で修得できなかった領域の修得を目指す。専門研修2年間の研修事項を確実にこなすことを踏まえ、より高度な技術を要するサブスペシャリティ（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科）またはそれに準じた外科関連領域の研修を進める。

学問：学会発表・論文執筆の基本的知識を身に付ける。

態度：倫理感に根ざした患者中心の安全な医療を実践し、研修医や学生などのロールモデルとなる。

経験症例：200例

術者症例：60例

※ 以下の日本外科学会ホームページの下記 URL を参照。

① 経験目標と到達目標の具体的項目

<https://jp.jssoc.or.jp/uploads/files/specialist/training-notebook.pdf>

② 外科領域専攻医の専門研修プログラムにおける経験目標の手術手技に該当する NCD 術式について

https://jp.jssoc.or.jp/uploads/files/specialist/curriculum-new_02.pdf

③ 外傷の修練（研修）について

https://jp.jssoc.or.jp/modules/specialist/index.php?content_id=68

(2) 臨床現場を離れた学習について

臨床現場以外でも知識やスキル獲得のため学会やセミナーに参加しなければならない。セミナーには学会主催または専門研修施設群主催の教育研修（医療安全、感染対策、医療倫理、救急など）、臨床研究・臨床試験の講習（eラーニングなど）、外科学の最新情報に関する講習や大動物（ブタ、ヤギ）を用いたトレーニング研修が含まれる。中でも、医療安全講習会、感染対策講習会、医療倫理講習会の受講はそれぞれ1単位合計3単位は必須。

(3) 自己学習について

自己学習は生涯学習の観点から重要視される。外科領域は広範囲にわたるため、研修施設での臨床修練だけでなく書籍や論文などを通読して幅広く学習する必要がある。日本外科学会が作成しているビデオライブラリーや日本消化器外科学会が用意している教育講座（eラーニング）などを利用して深く学習する。

(4) 具体的な研修スケジュール

① 本学週間スケジュール

消化器・一般外科の場合

	月	火	水	木	金	土	日
7:30-8:15 症例検討会 医局会				○			
8:00-8:30 抄読会 病理カンファレンス 医局会		○					
8:00-9:00 回診	○	○	○	○	○		
9:00-17:00 病棟業務 手術	○	○	○	○	○		
17:00-17:30 回診	○	○	○	○	○		

心臓血管外科の場合

	月	火	水	木	金	土	日
7:30-8:00 朝カンファレンス	○		○		○		
9:00- 手術	○	○	○	○	○		
8:00-17:00 病棟(ICU)業務	○	○	○	○	○		
16:30-内科外科カンファレンス				○			
17:00-心不全カンファレンス			○				

呼吸器外科の場合

	月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:00 抄読会 症例カンファレンス	○	○	○	○	○	○	
8:30-9:00 朝回診	○	○	○	○	○	○	
9:00- 手術	○	○			○		
9:00-12:00 午前外来	○	○	○	○	○	○	
13:30-16:00 午後外来	○	○	○	○	○		
9:00-17:00 病棟業務	○	○	○	○	○		
9:00-12:00 病棟業務						○	
9:00-10:00 総回診						○	
16:00-16:30 夕回診		○	○	○	○		
16:00 呼吸器カンファレンス (月1回)					○		

小児外科の場合

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30 朝カンファレンス	○	○		○	○		
9:00-12:00 病棟業務	○			○		○	
9:00-手術		○			○		
9:30-12:00 午前外来			○				
16:00-17:00 教授回診		○			○		
16:00-周産期合同カンファレンス				○			
16:30-症例検討会		○			○		

乳腺外科の場合

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30 術前カンファレンス	○				○		
8:30-9:00 病棟カンファ	○	○	○	○	○		
9:00-12:00 午前手術	○		○		○		

9:00-12:00 病棟業務	○	○	○	○	○	○	
11:00-13:00 術後/MBCカンファレンス(月1)						○	
14:00-17:00 午後外来手伝い・針生検		○		○			
14:00-17:00 午後手術	○		○		○		
17:00-17:30 回診	○	○	○	○	○		
16:00-17:00 合同カンファレンス(月1)					○		

内分泌外科の場合

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30 医局会(術前カンファレンス・相談症例)	○		○		○		
8:30-9:00 病棟回診(病棟医)	○	○	○	○	○	○	
9:00- 手術	○		○				
8:30- 抄読会・勉強会						○	
13:00-16:00 細胞診検査	○						
16:00-17:00 医局会(第2週)			○				
17:00-17:30 リサーチワークショップ(第2週)			○				
17:30- 病理細胞診合同カンファレンス(第1週)	○						
18:30- 核医学科合同カンファレンス(第1週)	○						
9:00 外来超音波検査(適時)	○	○	○	○	○	○	

救命救急・救急診療の場合

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-9:30 朝カンファレンス	○	○	○	○	○	○	○
9:30-11:00 多職種カンファ・回診	○	○	○	○	○	○	
11:00-19:00 三次救急初療 病棟業務	○	○	○	○	○	○	○
19:00-20:00 夕カンファレンス	○	○	○	○	○	○	○
20:00-21:00 夕回診	○	○	○	○	○	○	○
21:00-8:00(翌) 三次救急初療 病棟業務	○	○	○	○	○	○	○
0:00(24:00) ICUバランス回診	○	○	○	○	○	○	○
13:30-14:00 リハビリカンファレンス	○						
13:00-13:30 多職種ミーティング			○				

②年間スケジュール（案）

月	全体行事予定	
4	・外科専門研修開始。 ・日本外科学会参加予定（発表）。	医療安全講習会、 感染対策講習会、 医療倫理講習会 は原則 1 年目に受講 する
5	・研修修了者：専門医認定審査申請・提出	
8	・研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）	
1 1	・臨床外科学会参加予定（発表）。	各学会の年次総会、 定期学術集会等は各 診療科の研修中もし くは関連施設（連携 施設）にて参加予定 とする
1 2	・研修修了者：NCD 症例数の登録（最終）	
3	・その年度の研修修了 ・専攻医：年次評価及び施設評価の入力 ・指導医：年次評価及び施設評価の入力 ・指導責任者：前年度の指導実績報告書提出 ・研修プログラム管理委員会開催	

（5）研修の評価

- ① 外科学会のホームページにある研修実績管理システムにて、専攻医は自身で研修実績の記載（NCD登録）を行い、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。
- ② 専攻医指導医マニュアルに沿って形成的に評価する。専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれにコアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、各年度の終わりに達成度を評価する。
- ③ 研修施設の移動やローテーション毎に、研修マニュアルに基づく研修目標達成度評価を行い、研修プログラム管理委員会に報告する。
- ④ 多職種（看護師など）のメディカルスタッフの意見も取り入れて評価を行う。

（6）研修修了認定

- ① 3年次（卒後5年目）専門研修プログラム修了時に外科専門医研修プログラム管理委員会にて総括的評価を行う。
- ② 知識、病態の理解度、処置や手術手技の到達度、学術業績、プロフェッショナルとしての態度と社会性など、年度ごとに行われる形成的評価を参考に評価する。
- ③ 最終年度の専攻医指導評価と目標達成度評価報告で基準以下（到達レベルDまたは1.劣る）の場合は未修了とする。
- ④ 研修期間中の休止期間が規定を超える場合、専門研修修了時に未修了扱い

とし、原則、引き続き同一の専門研修プログラムで研修を行い、規定を超えた休止日数分以上の日数の研修を行う。

⑤ 専門研修プログラム修了時に外科専門研修プログラム管理委員会より、総合的評価にて修了要件を満たした者に対しては、日本外科学会より外科専門医研修修了証を交付する。

(7) 研修の休止と研修期間の延長

① 専攻医としての3年間の研修プログラムにおける休止期間は最長180日とする。

② 妊娠・出産・育児、傷病・その他の正当な理由による休止期間が180日を超える場合、研修延期となり、引き続き同一の専門研修プログラムで休止日数分の研修を追加して行う。

③ 大学院または留学等における研究専念期間が6か月を超える場合、その間の専門研修は休止されたものとみなされる。②に示す場合と同様に休止日数分の研修を追加して行う。ただし、大学院入学後も研究と並行して臨床研修を継続した場合は例外とする。

④ 専門医資格申請に必要な症例経験基準、手術経験基準を満たしていない場合は、未修了者として取扱われ、原則として引き続き同一のコースで専攻医として研修を行い、不足する経験基準以上の研修を行う必要がある。

⑤ 休止期間中の学会参加実績、論文、発表実績、講習受講実績は、専門医認定要件への加算を認める。中断期間中のものは認めない。

(8) プログラム修了後の進路

専攻医としての研修(3年間)が修了し、外科専門医の資格を取得した後も採用時に選択したコースに則ってさらに2年間に渡り後期臨床研修を継続する。正当な理由があれば、コースの変更も可能である。ただし、人員配置の都合上、希望申告から移行までに一定期間を要する場合がある。また、他施設のプログラムへの移行を希望する場合、希望する施設から受け入れの意向が得られれば、移行可能である。

(9) 研修実績の記録

外科学会のホームページにある研修実績管理システムに各専攻医の研修実績が保管される。また、専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価および専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も同様に保管される。

(10) プログラム運用マニュアル

◆専攻医研修マニュアル

日本外科学会の研修実績管理システムにて定める

◆指導者マニュアル

日本外科学会の研修実績管理システムにて定める

◆専攻医研修実績記録フォーマット

専攻医は自身の研修実績を日本外科学会の研修実績管理システムに登録する

◆指導医による指導とフィードバックの記録

指導医による専攻医の研修状況の確認や研修評価は、日本外科学会の研修実績管理システムにて行う

◆指導者研修計画 (FD) の実施記録

指導者による研修計画 (FD) の実施記録は、日本外科学会の研修実績管理システムにて行う

【9】本プログラムに関する問い合わせ先

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院 卒後臨床研修センター

e-mail : sotsuken_bm@twmu.ac.jp

各研修プログラムコースの詳細や見学等について

《総合一般外科コースおよび消化器外科連動型コース》

担当者：番場 嘉子 (医局長)

e-mail : bamba.yoshiko@twmu.ac.jp

URL : <https://www.twmu-ige.jp/surgery/>



《心臓血管外科連動型コース》

担当者：宮本 真嘉 (医局長)

e-mail : surg.au@twmu.ac.jp

URL : <http://twmu-cardiovascular.jp/>



《呼吸器外科連動型コース》

担当者：青島宏枝

e-mail : aoshima.hiroe@twmu.ac.jp

URL : www.twmu.ac.jp/CHI/



《小児外科連動型コース》

担当者：末吉亮

e-mail：sueyoshi.ryo@twmu.ac.jp

URL：<http://www.twmu.ac.jp/pediatric-surgery/>



《乳腺外科連動型コース》

担当者：塚田 弘子

e-mail：tsukada.hiroko@twmu.ac.jp

URL：https://www.twmu.ac.jp/info-twmu/shinryo-bumon/breast_surgery.html



[pital/endocrine-surgery/](#)



[p/ccmc/](#)



【10】連携施設

①足立医療センター

住 所：〒123-8558 東京都足立区江北 4-33-1 TEL：03-3857-0111

URL：<https://twmu-mce.jp/>

②八千代医療センター

住 所：〒276-8254 千葉県八千代市大和田新田 477-96 TEL：047-450-6000

URL：www.twmu.ac.jp/TYMC/

③愛媛県立中央病院

住 所：〒790-0024 愛媛県松山市春日町 83 番地 TEL：089-947-1111

URL：<http://www.eph.pref.ehime.jp/epch/>

④医療法人財団 荻窪病院（心臓血管外科）

住 所：〒167-0035 東京都杉並区今川 3-1-24 T E L：03-3399-1101

U R L：<https://www.ogikubo-hospital.or.jp/>

⑤社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院

住 所：〒861-4193 熊本県熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 T E L：096-351-8000

U R L：<http://sk-kumamoto.jp/>

⑥社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院 聖隷浜松病院

住 所：〒430-8558 静岡県浜松市中区住吉 2-12-12 T E L：053-474-2222

U R L：<http://www.seirei.or.jp/hamamatsu/>

⑦地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立中央病院

住 所：〒400-8506 山梨県甲府市富士見 1 丁目 1 番 1 号 T E L：055-253-7111

U R L：<https://www.ych.pref.yamanashi.jp/>

⑧医療法人社団武蔵野会 TMG あさか医療センター

住 所：〒351-0023 埼玉県朝霞市溝沼 1340-1 T E L：048-466-2055

U R L：<http://www.asakadai-hp.jp/>

⑨医療法人社団 常仁会 牛久愛和総合病院

住 所：〒300-1296 茨城県牛久市猪子町 896 T E L：029-873-3111

U R L：<https://www.jojinkai.com/>

⑩大分市医師会立 アルメイダ病院

住 所：〒870-1195 大分県大分市大字宮崎 1509-2 T E L：097-569-3121

U R L：www.almeida-hospital.com/

⑪一般社団法人 至誠会第二病院

住 所：〒157-8550 東京都世田谷区上祖師谷 5-19-1 T E L：03-3300-0366

U R L：<http://www.shiseikai-daini-hosp.jp/>

⑫社会医療法人三栄会 中央林間病院

住 所：〒242-0007 神奈川県大和市中央林間 4-14-18 T E L：046-275-0110

U R L：<http://www.hospital-crg.net/>

⑬医療法人社団けいせい会 東京北部病院

住 所：〒123-0872 東京都足立区江北 6-24-6 T E L：03-3854-3181

U R L：<http://www.tokyo-hokubu.jp/>

⑭医療法人財団中山会 八王子消化器病院

住 所：〒192-0903 東京都八王子市万町 177 番地の3 TEL：042-626-5111

URL：<http://www.hachiojisyokaki.com/>

⑮医療法人社団保健会 谷津保健病院

住 所：〒275-0026 千葉県習志野市谷津 4-6-16 TEL：047-451-6000

URL：<http://www.yatsu.or.jp>

⑯医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院

住 所：〒226-0025 神奈川県横浜市緑区十日市場町 1726-7 TEL：045-984-2400

URL：<http://www.shinmidori.com/>

⑰公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院

住 所：〒145-0065 東京都大田区東雪谷四丁目 5-10 TEL：03-5734-8000

URL：<http://www.ebara-hp.ota.tokyo.jp>

⑱医療法人 誠壽会 上福岡総合病院

住 所：〒356-0011 埼玉県ふじみ野市福岡 931 TEL：049-266-0111

URL：<http://www.kamifukuoka.or.jp/>

⑲公益財団法人 東京都保健医療公社 多摩南部地域病院

住 所：〒206-0036 東京都多摩市中沢 2-1-2 TEL：043-338-5111

URL：<http://www.tamanan-hp.com/>

⑳公益財団法人 東京都保健医療公社 豊島病院

住 所：〒173-0015 東京都板橋区栄町 33-1 TEL：03-5375-1234

URL：<http://www.toshima-hp.jp/>

㉑社会医療法人 かりゆし会 ハートライフ病院

住 所：〒901-2492 沖縄県中頭郡中城村字伊集 208 番地 TEL：098-895-3255

URL：<https://www.heartlife.or.jp/hospital/>

㉒一般財団法人 防府消化器病センター 防府胃腸病院

住 所：〒747-0801 山口県防府市駅南町 14-33 TEL：0835-22-3339

URL：<https://www.hofu-icho.or.jp>

㉓東京医科大学 茨城医療センター

住 所：〒300-0395 茨城県稲敷郡阿見町中央 3-20-1 TEL：029-887-1161

URL：<http://ksm.tokyo-med.ac.jp/>

- ②④社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 埼玉県済生会 加須病院（栗橋病院）
住 所：〒347-0101 埼玉県加須市上高柳 1680 番地 TEL：0480-70-0888
URL：www.saikuri.org
- ②⑤社会医療法人財団 石心会 埼玉石心会病院
住 所：〒350-1305 埼玉県狭山市入間川 2-37-20 TEL：04-2953-6611
URL：<http://www.saitama-sekishinkai.jp>
- ②⑥熊本赤十字病院
住 所：〒8601-8520 熊本県熊本市東区長嶺南 2-1-1 TEL：096-384-2111
URL：<https://www.kumamoto-med.jrc.or.jp/>
- ②⑦独立行政法人 地域医療推進機構 東京城東病院
住 所：〒136-0071 東京都江東区亀戸 9-13-1 TEL：03-3685-1431
URL：<https://joto.jcho.go.jp/>
- ②⑧医療法人社団 栄悠会 綾瀬循環器病院
住 所：〒120-0006 東京都足立区谷中 2-16-7 TEL：03-3605-2811
URL：<http://www.ayaseheart.or.jp/>
- ②⑨公益財団法人 東京都保健医療公社 多摩北部医療センター
住 所：〒189-8511 東京都東村山市一丁目 7 番 1 号 TEL：042-396-3811
URL：<http://www.tamahoku-hp.jp/>
- ③⑩一般財団法人 宮城県成人病予防協会 仙台循環器病センター
住 所：〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央 1-6-12 TEL：022-372-1111
URL：<http://www.mygsji.or.jp/>
- ③⑪医療法人財団 松圓会 東葛クリニック病院
住 所：〒271-0067 千葉県松戸市樋野口 865-2 TEL：047-364-5121
URL：<https://www.tokatsu-clinic.jp>
- ③⑫医療法人社団 公仁会 大和成和病院
住 所：〒242-0006 神奈川県大和市南林間 9-8-2 TEL：046-278-3911
URL：www.fureai-g.or.jp/seiwa/
- ③⑬特定医療法人財団 竹政会 福山循環器病院
住 所：〒720-0804 広島県福山市緑町 2-39 TEL：084-931-1111
URL：<http://www.fchmed.jp/>

③④地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター

住 所：〒500-8717 岐阜県岐阜市野一色 4-6-1 T E L：058-246-1111

U R L：<https://www.gifu-hp.jp/>

③⑤さいたま市立病院

住 所：〒336-8522 埼玉県さいたま市緑区三室 2460 T E L：048-873-4111

U R L：<https://www.city.saitama.jp/hospital/index.html>

③⑥長野県立こども病院

住 所：〒399-8288 長野県安曇野市豊科 3100 T E L：0263-73-6700

U R L：<http://nagano-child.jp/>

③⑦医療法人 徳州会 宇治徳州会病院

住 所：〒611-0041 京都府宇治市槇島町石橋 145 T E L：0774-20-1111

U R L：<https://www.ujitoku.or.jp/>

③⑧社会医療法人 中山会 宇都宮記念病院

住 所：〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り 1-3-16 T E L：028-622-1991

U R L：<https://www.nakayamakai.com/>

③⑨独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センター

住 所：〒245-8575 神奈川県横浜市戸塚区原宿 3-60-2 T E L：045-851-2621

U R L：<https://yokohama.hosp.go.jp/>

④⑩長野医療生活協同組合 長野中央病院

住 所：〒380-0814 長野市西鶴賀町 1570 T E L：026-234-3307

U R L：<https://www.nagano-chuo-hospital.jp/>

④⑪公益財団法人大原記念倉敷 中央医療機構 倉敷中央病院

住 所：〒710-8602 岡山県倉敷市美和 1-1-1

U R L：<https://www.kchnet.or.jp/>